

## 私の将来の夢と岩手のこれから

桑島 咲

私の将来の夢は「理学療法士」になることだ。理学療法士とは、マッサージやリハビリなどによって、慢性的な痛みを抱える人や、怪我に苦しむ人を助ける職業だ。また、治療中にも会話を通して、痛みや障害を持つ人々の心のケアもしてくれる。

この職業を将来の夢とした理由は、今、通院している整形外科で私の担当の理学療法士の方に憧れているからである。その方は、スポーツ障害や筋肉、骨の種類など体の構造に関して本当に幅広い知識を持っており、どんな質問にも答えてくれる。また、私の学校の硬式野球部のトレーナーもしていて、硬式野球部の活躍を陰から支えている。

また、私には目標がある。それは、私がソフトボールを通して学んだたくさんの方のことを、昔の自分と同じ立場にいる後輩に伝えることだ。私がソフトボールを通して学んだこととは、「我慢」することと、支えてくれる人達への「感謝」の気持ちである。このふたつは、勝つため、強いチームになるため、良いチームになるためには決して欠いてはいけない要素だと思う。その意味を自分で本当に理解するには、高校三年間はあまりに短く感じる。だから私は、理学療法士になれば、自分の母校のソフトボール部に、トレーナーという形で戻ってきたいと思っている。そして、自分が学んできた事、ソフトボールの楽しさを後輩達に伝えたい。そのためには、専門学校に進学して、理学療法士の免許を取得し、病院や治療院に就職することが大前提である。それに加えてソフトボールに関する専門的な知識や、スポーツ選手のための栄養学を学べば、より広い分野で活躍できるトレーナーになれると思う。また、トレーナーは監督やコーチとは、また違う面、違う観点からチームをサポートすることができる。選手を支えることでチームを強化し、全国大会で勝ち上がれるチームを作りたいと思っている。自分がお世話になった母校に、こういう形で恩返しができるのであれば最高だと思う。そして、全国大会など、大きな大会へ出場するには地域の方の支えが必要不可欠である。寄付金をいただいたり、応援していただいたり、いつも温かく見守ってもらっている。だから私達は、挨拶やゴミ拾いを積極的に行っている。また、年に一度地域の方々と一緒にトイレ掃除も行っている。こうした活動を通して、お互いに気持ちの良い、さわやかな関係を築くことで、地域を明るくできれば、と思っている。

また、今は高齢化社会である。高齢者が増えるということは、それだけ身体の衰えにより痛みを持ったり、運動機能を制限されたりする人々が増えるということだ。そういうお年寄りを、私は助けたいと思う。例えば、腰痛で歩くのがつらいとか、肩こりがひどくて大変だというお年寄りの悩みを、マッサージやリハビリテーションによってやわらげ、元気にしてあげたい。そして、明るく活発な老後生活を送ってもらう手助けをしたいと思っている。そうすることで、地域を元気にしたい。私は医療の側面からしか支えることができないが、しかし健康は人が生きていく上で一番大切な基礎となる部分だと思う。私はその側面から人々を支え、岩手を元気にしたいと思う。